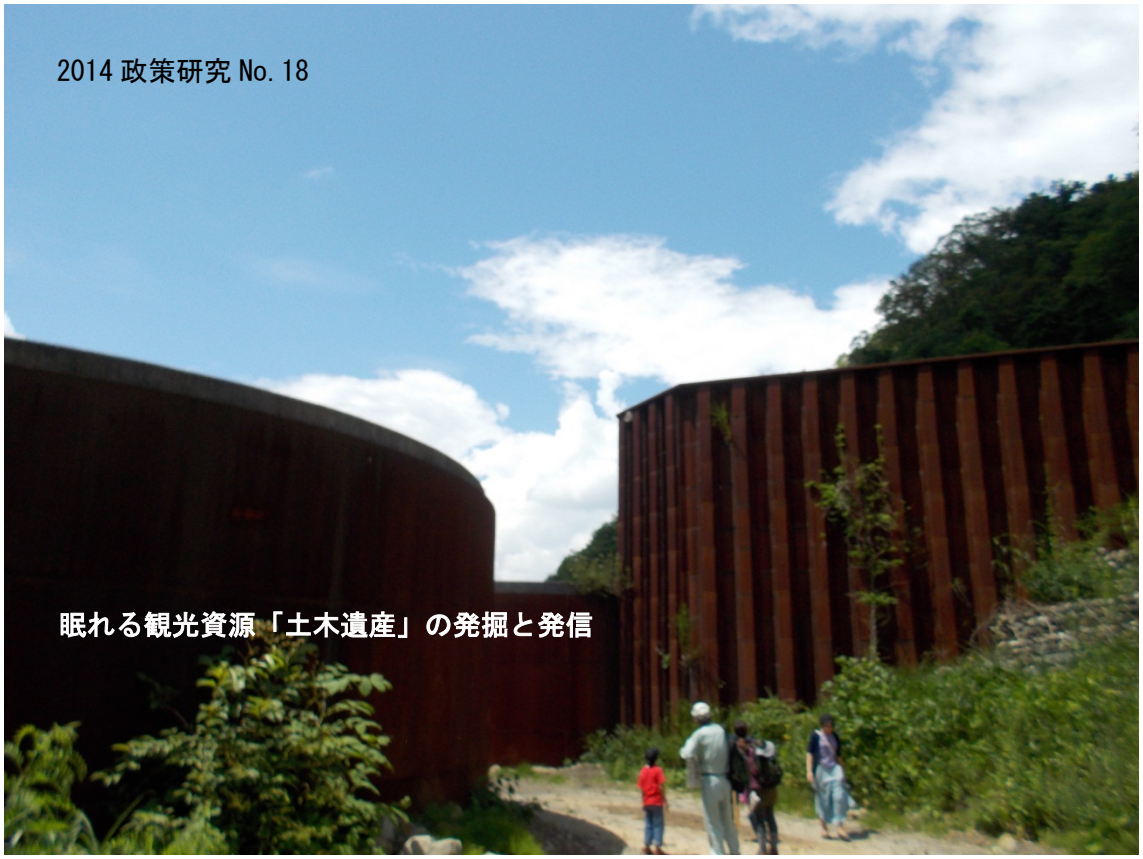



# 研　究　報　告　書

長野地方事務所　農地整備課　汾陽　啓介
小林　祥吾
農政部　農地整備課　小板橋晴之
林務部　森林政策課　古澤　宏章
観光部　観光誘客課　中村　武志
建設部　砂防課　今井　文乃

# 眠れる観光資源「土木遺産」の発掘と発信

## 【はじめに】

「土木遺産を観光資源に」という試みを政策研究することとなった我々研究メンバーは困惑した。研究グループメンバー６名の内、５名が建設、林務、農政の技術職であり、日常的に土木施設に関わってきたものの、それを観光と結びつけるなどという所業は通常業務では全く考えなかったことである。しかし唯一の観光部メンバーの見識や、研究を進めるうちに見えてきた土木施設の新たな「光ってる」部分の発見、そして何よりもメンバーがほぼ全員「若かった」ことによる柔軟な発想により、楽しく前向きに研究を進めることができた。この研究内容について以下に報告する。

## １　背景

人々が、安全に、快適に、よりよく暮らすために大昔から作られてきた土木施設。今や我々の日常生活の一部となって処々に存在しており、今やその恩恵を享受していない人は皆無といっても過言ではない。

これらの施設の中には、長い時を経て今なお現役で活躍するものも数多く存在する。

これらは総じて堅牢性もさることながら、機能美、職人技、歴史的エピソードなど多くの見どころを持っており、人々のよりよい生活を実現するため長期にわたってその機能を発揮し続けている。

では、そんな土木施設に対する人々の認識はどうだろうか？

土木施設は地域の機能の一部としてそこに「地味に」存在しているが、何のためにそこにあるのか？何の役に立つのか？なんでこんな形なのか？マニア、専門家、施設の受益者くらいしか知らないし、当然魅力もわからない。興味も湧いてこない。

総じて、「土木施設」の持つ価値、魅力は広く世に知れ渡っていない。

まさに、「もったいない」状況といえるだろう。

## ２　目的

ならば、土木遺産に『価値』、『魅力』を付与し、発信してみよう！というのがこの研究の出発点である。

土木遺産の持つ、今は隠れた『価値』、『魅力』を広く世の中に情報提供することにより、

➢「土木遺産ってすごいね」という驚き

➢「県内にこんな土木遺産があるんだね」という新たな発見

➢「こんな情報ほしかったんだ」という満足感

➢「県が PR してるんだね」という話題性

を、世代、性別、職種、地域を超えたあらゆる人々に実感してもらうことによって、

➢長野県っていいもの持ってるんだね、新幹線も伸びるし行ってみるか…と観光客増加

→地域が経済的に潤い、活性化

➢県が土木遺産をPRしているなんて…他にないね、クール信州だね！

→県のイメージアップ

➢県がPRしてから見に来る客が増えたなぁ！

→市町村、観光連盟、民間会社でもPRやツアーの実施など独自の観光展開が可能⇒土木遺産」以外の分野に効果が波及

このような変化を目指して、研究を進めることとする。

## ３　ありたい姿

研究にあたって、最終的にありたい姿を**「みんな」「大好き」「土木遺産」**とした。

➢『みんな』

既に土木遺産に造詣の深い一部の専門家やマニアだけでなく、土木自体を知らない人々、老若男女、世代や居住地域を問わず…みんな

➢『大好き』

土木遺産の持つ『価値』『魅力』を知り、興味を持ち、好きになってもらいたい。そして長野県に来てもらいたい。長野県でお金を使っていってもらいたい。

➢『土木遺産』

土木遺産＝見に行く価値のある、優良な観光資源であるとみんなに認められてほしい

## ４　研究の内容（研究経過は資料編資料３を参照）

(1)土木遺産の収集

まずは県内にどのような土木遺産があるのか把握するために情報収集を実施。

(2)現地調査

収集した情報を基に、県内の土木遺産の持つ価値、魅力を実感するため、一部の施設について現地調査を実施。

(3)土木施設を巡るツアーへの参加

土木施設を見に来る人、それを主催する人が何を考えているのか？また、我々も参加者として何をそこで感じることができるのか？という観点から、小谷村で実施している砂防ダム巡りツアーに参加。併せて参加者、主催者へアンケート調査を実施。

(4)旅行業者へのインタビュー

土木遺産は果たして観光資源としての価値はあるのか？を検証するために実施。

(5)PR方法の検討

広く『価値』『魅力』を効果的に知らしめるにはどのような手法があるのか？を検証するため、各地の観光PR事例や方法を研究。

(6)その他

土木遺産に係る市民講座参加、研究テーマアドバイザーや知事との意見交換を実施。

## １　県内の土木遺産の収集

研究を進めるにあたってまず必要な作業が、県内にどのような土木遺産があるのか把握することである。研究生の私見でリストアップしたところ、県内各地から約 90 箇所の施設が候補に挙げられた。その中でも特に機能やデザイン等の価値や見どころを持ち、観光資源としても魅力があると思われる施設の一部を下表にまとめた。

| 種　類 | 土木遺産名称 | 場　所 | 価　値 | 認　定 | 見どころ |
|---|---|---|---|---|---|
| 水路 | 牛伏川ﾌﾗﾝｽ式階段工 | 松本市 | 機能<br>雰囲気<br>ﾃﾞｻﾞｲﾝ | 重要文化財 | ○ﾌﾗﾝｽのﾃﾞｭﾗﾝｽ川・ｻﾆｴｰﾙ渓谷の階段渓谷の設計を採用<br>○連続する石張階段工の機能美 |
| | 薬師沢石張水路工 | 小川村 | 非日常感<br>ｴﾋﾟｿｰﾄﾞ<br>ﾃﾞｻﾞｲﾝ | 登録有形文化財 | ○天然の石のみで作られた水路・堰堤<br>○懐かしさを感じる農村景観 |
| | 上原温水路 | 大町市 | 機能<br>雰囲気<br>ﾃﾞｻﾞｲﾝ | － | ○農業用水を温める機能を持つ希少な水路<br>○水深も浅く、親水空間としても機能 |
| | 西天竜幹線水路円筒分水群 | 伊那市 | 機能<br>歴史<br>ﾃﾞｻﾞｲﾝ | 土木学会推奨土木遺産 | ○円形構造物の機能美<br>○農業用水を均等に流出する美しい水景 |
| | 善光寺用水 | 長野市 | 歴史<br>ｴﾋﾟｿｰﾄﾞ<br>ﾃﾞｻﾞｲﾝ | 疏水百選 | ○石積水路が市街地の良好な景観を形成（長野市景観賞受賞） |
| 堰堤 | 釜ヶ淵堰堤 | 松本市 | 機能<br>ﾃﾞｻﾞｲﾝ<br>雰囲気 | 登録有形文化財 | ○建設当時国内最大級の練石積ｱｰﾁ式砂防堰堤<br>○周囲の景観に溶け込むﾃﾞｻﾞｲﾝ |
| | 芦沢石積堰堤 | 麻績村 | 機能<br>雰囲気 | 登録有形文化財 | ○自然石空石積工法の高度な技術<br>○散歩ｺｰｽ有 |

| 種　類 | 土木遺産名称 | 場　所 | 価　値 | 認　定 | 見どころ |
|---|---|---|---|---|---|
| 鉄道 | 小川森林鉄道 | 上松町 | 機能<br>歴史<br>ﾃﾞｻﾞｲﾝ | 森林セラピー基地 | ○現存する古鉄橋<br>○赤沢自然休養林では森林鉄道に乗車可能 |
| 橋梁 | 龍洞院参道橋 | 千曲市 | ﾃﾞｻﾞｲﾝ<br>雰囲気<br>非日常感 | 登録有形文化財 | ○ﾚﾝｶﾞ構造物完成期の優れた意匠<br>○施設位置の意外性 |
| | 昭和橋 | 坂城町 | 歴史<br>ﾃﾞｻﾞｲﾝ<br>雰囲気 | 土木学会推奨土木遺産 | ○世界初といわれるｺﾝｸﾘｰﾄローゼ桁<br>○橋上部電灯のﾚﾄﾛ感 |
| | 桃介橋 | 南木曽町 | 歴史<br>ﾃﾞｻﾞｲﾝ<br>雰囲気 | 重要文化財 | ○木製桁の吊橋としては日本有数の長大橋 |
| | 旧片平橋 | 塩尻市 | ﾃﾞｻﾞｲﾝ<br>雰囲気 | 土木学会推奨土木遺産 | ○ｱｰﾁ橋として独特の曲線美と景観的な魅力 |
| ため池 | 鏡池 | 長野市 | 雰囲気<br>機能 | － | ○湖面に写る四季折々の戸隠山は絶景<br>○温水ため池の機能 |
| トンネル | 戸草隧道 | 信濃町 | ﾃﾞｻﾞｲﾝ<br>雰囲気<br>非日常感 | 土木学会推奨土木遺産 | ○ﾚﾝｶﾞ造りの機能美<br>○隠れた場所にありﾀｲﾑｽﾘｯﾌﾟしたような雰囲気 |

小川森林鉄道の古鉄橋
（現存する国産最古の鉄橋）

昭和橋とレトロな電灯

## ２　県内の土木遺産現地調査

リストアップした土木遺産について価値、魅力を調査するため現地調査を行った。対象箇所はリストアップした施設の中から、松本・長野地域で観光資源として活用しやすいと思われるものを選定し、平成 26 年 7 月 29 日、31 日の 2 日間で計 14 箇所の調査を行った。

（１）平成 26 年 7 月 29 日　松本地域の土木遺産現地調査　11:30～17:00

➢芦澤石積堰堤（登録有形文化財）東筑摩郡麻績村

明治 20 年に施工されており、現存する 4 基の石積堰堤は、野面石（安山岩などの天然石 50ｃｍ～120ｃｍ）を「六つ巻」と呼ばれる空石積工法で構築されており、現在も堰堤としての砂防の機能を果たしている。

散策道が整備されており、歩きやすい。また、森林内にあるため、夏でも涼しい印象を受ける。堰堤は大きく、非日常感が味わえる。

➢拾ケ堰　安曇野市

江戸時代後期の 1816 年に開削され、近代以降も改修が続けられ、現在は 1,000ha が灌漑されています。文化遺産であると同時に農業に求められている多面的機能、環境保全・景観維持といった面でも重要な役割を果たしている。

現在の拾ヶ堰は整備が進み、周辺は自転車道が整備され、マラソン大会が開かれている。日常に深く密着しているが、歴史が深い土木遺産である。

➢四ヶ堰円筒分水工　塩尻市

昭和9年に設置された円筒分水で、4地区に農業用水を分配している。円の周長によって、排水量を決めており、水問題の解決に大きく貢献した。

円筒分水については、サミットが行われるくらい愛好家が多い。観光資源として活用するためには、他の円筒分水などと組み合わせる必要である。（スタンプラリー等）

➢午伏寺川フランス式階段工（国重要文化財）　松本市

明治 31 年より施工され、大正 7 年に工事はしゅん工した。牛伏川周辺に多くの砂防施設は、今もなお防災遺産として遺されている。その中でも牛伏川フランス式階段工は、国の重要文化財にも指定されており、リズミカルな水の流れと四季折々の美しい表情を見せ、地元の人々からも愛されている。

牛伏寺川フランス式階段工

「牛伏鉢伏友の会」という市民団体により、パンフレットの作成、周辺散策道の整備、案内ガイドの育成などにより情報の発信、構造物の維持管理活

動が行われている。至る所に案内板や、パンフレットが設置され、歴史を知ることが出来る上、散策道も整備されているため歩きやすい。フランス式階段工は、規則的に配置され、人の手で造られたとは思えないほどである。

➢片平橋　塩尻市（土木学会選奨土木遺産）

昭和 10 年に造られた、鉄筋コンクリート製のアーチ橋。昭和 41 年まで国道 19 号で奈良井川に架かる橋として使用されていた。

国道 19 号より少し離れた場所にひっそりと佇むアーチ橋。土木遺産認定の石碑のある、橋の上部からでは、魅力は分からない。一番綺麗に見える場所は、奈良井川の中からであろう。アーチ橋の曲線美を味わえる場所を探す楽しさや、自然の中にたたずむ姿はとても魅力的である。

（２）平成 26 年 7 月 31 日長野地域の土木遺産現地調査　9:00～17:00

➢埴科頭首工　千曲市

昭和 27 年施工。総延長 15km に及ぶ埴科幹線用水路の頭首工。古くから用水を巡って、抗争が繰り返されてきたが、この用水路が完成したことにより抗争は幕を閉じた。

ゲートの開度計が特殊（石柱に矢印と目盛）、施設の規模は大きく、非日常感が味わえる。

➢昭和橋　坂城町

昭和 12 年施工。3 連鉄筋コンクリートローゼ橋。昭和 27 年に 6 連のローゼ橋が追加され、9 連のローゼ橋となった。それまでは木橋が架けられていたが、大雨で増水するたびに何度も流されてしまった。そのような歴史を繰り返す中で、地元の住民たちの念願であった、永久橋が完成した。

コンクリートの補修はされているものの、橋自体は健全なまま現在も生活道路として使用されている。橋の照明はレトロなものが使われており、歴史を感じることができる。ローゼ橋の美しさを実感するためには、千曲川に架かる別の橋から見るか、少し離れた場所から見るのがよい。

➢荏沢川石堰堤（登録有形文化財）　千曲市

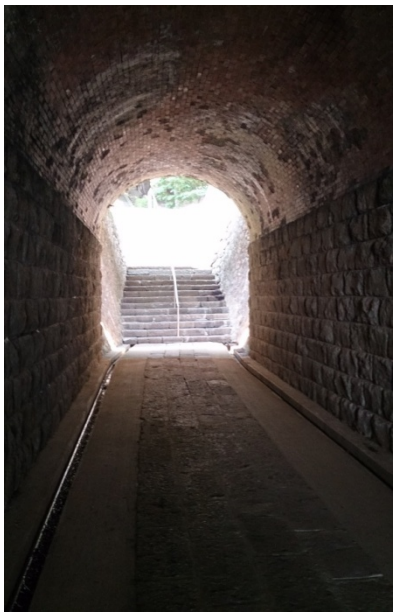
明治 17 年頃建設された複数からなる石造りの堰堤である。平成 21 年 1 月 8 日に国の登録有形文化財として登録された。

車を乗り入れられる道路が、構造物の真横を走っており、アクセスはとても良い。文化庁プレートや、説明看板があり、歴史を学ぶことができる。石積堰堤は、周りの景観と調和し、溶け込んでいる。4 基の堰堤はそれぞれ違った特徴を持っており、違った表情を楽しむことができる。

➢龍洞院参道橋（登録有形文化財）　千曲市

明治 33 年に篠ノ井線開通に伴い、龍洞院への参道を確保するために造られたレンガ造りのアーチ橋。日本の近代土木遺産に選定。

アクセスも良く、参道が整備されているが、一見すると、参道橋は見えない。参道橋の前に立つとまず大きさに圧倒され、レンガ造りの緻密さに驚く。参道から龍洞院に続く道も非日常感が味わえる。



龍洞院参道橋

➢久米路橋　長野市

古くから名勝として知られ、何回も橋が架け替えられてきた。記録ある最古のものは、1611 年（慶長 16 年）。長野県歌「信濃の国」の 4 番に歌われている。

石碑や逸話についての看板があり、展望台もあるため見学しやすい。

➢薬師沢石張水路工（登録有形文化財）　上水内郡小川村

明治 19 年から事業が開始され、昭和 28 年にしゅん工した。地すべり地帯である当該地の田畑を守るための砂防事業で、主に石張水路が施工されており、現在も有効に機能している。砂防惣代という地区の代表の方を中心に遊歩道の整備等を行っている。

駐車場、遊歩道が整備されており、案内看板やパンフレットが設置されており、歴史を学ぶことができる。また、夏季には水田も栽培されている。最上部のコンクリート枠堰堤の上流には水田があり、まさに水田を守るための砂防施設であることがよくわかる。また、コンクリート枠堰堤から下流を望むと、田園風景に溶けこんだ石張水路工と北アルプスの山々を一望できる。

薬師沢コンクリート枠堰堤から望む田園風景と北アルプス

➢鏡池　長野市

昭和 49 年施工の農業用ため池。風のない日は湖面に戸隠連峰が綺麗に映し出される。このため池によって水が温められるため、冷害の影響も受けることなく、安定した品質の水等が栽培できるようになった。

観光地化されており、人が多く見られ、レストラン、トイレ、駐車場、遊歩道などの施設が整備されている。戸隠山の眺望は良好である。そのため、土木構造物としては、あまり目立たない。

➢戸草隧道（土木学会選奨土木遺産）　上水内郡信濃町

明治 21 年しゅん工。レンガと切石で造られた貴重な土木遺産。もともとは鉄道の隧道として造られたが、現在は、生活道路として活用されている。

駐車場はないが、近くに駐車は可能である。JR 信越線が並走しており、新旧戸草隧道を見ることができる。また、トンネル内にはいると、うす暗くレンガと切石により造られたトンネルが歴史を感じさせる。一部コンクリート吹付けにより補修されているのが残念である。

戸草隧道

➢芋川用水頭首工

開削は 1849 年（嘉永 2 年）に通水したが、崩落や、漏水によりたびたび水争いの引き金となった。1979 年（昭和 54 年）から改修工事が始まり、2008 年（平成 20 年）まで行われた。

駐車場はあるが、道幅が狭い。説明看板があるため歴史を学ぶことができる。取水口からの全長は 29km にも及び、開削から 400 年経った今も有効に機能している。

（3）調査結果総括

今回の調査により、観光資源となりうるものが多く見られた。これらは付加価値を付けて情報発信することにより、さらに輝きが増すのではないか。

午伏鉢伏友の会や、砂防惣代などの住民組織による、歩道の整備や構造物の維持管理が行われることで歴史が語り継がれ、今なお機能し続けている。そのように地域住民から愛され、守られる姿が本来の土木遺産の姿であると考える。

## ３　小谷村砂防ダムツアー

土木施設を見に来る人、それを主催する人が何を考えているのか？また、我々も参加者として何をそこで感じることができるのか？という観点から、小谷村で実施している砂防ダム巡りツアーに参加した。

（１）ツアー概要

平成 26 年 8 月 2 日（土）晴　8:30～16:00

村内にある 10 種類の砂防堰堤をマイクロバスで 1 日かけて巡る。

昼食：サンテインおたり

体制：ガイド 1 名、専門ガイド 2 名、運転手 1 名

参加者：一般 19 名と村ケーブルテレビ取材 1 名

ツアーのパンフレット

（２）ツアー参加記録

朝からよく晴れた日だった。小谷村役場前で受付を済ますと間もなく、異常に車高の高いマイクロバスが出現！これから非日常体験が確実に訪れるであろう予感に期待に胸が膨らむ。

配布されたパンフレットは 20 枚程のカラーコピーで、砂防堰堤の分類と 10 ヶ所の砂防堰堤が写真と図付きで紹介されているが、観光案内等は一切なく、意外とシンプルな作りである。

車高の高いマイクロバス

参加者はこれまた意外にも約半数が女性。家族連れもいる。年齢層は比較的若い。

１ヶ所目のコンクリートブロック堰堤に到着。

きれいに草刈りされている。ガイドに聞いたところ、前日に１日かけて今日行くところの草刈りをやったとのこと。ツアー準備も大変な作業だ。

早速堰堤の説明が始まった…と同時に、参加者たちは一斉に一眼レフをさっと取り出し、堰堤の撮影会が始まった。更に驚いたことに、一人が堰堤に登り始めると、皆がそれにならって次々と登り始めた！堰堤の感触を確かめるためか？或いは堰堤との一体感を実感したいのか？参加者たちの堰堤への熱い思いが、いきなり１ヶ所目から伝わってくる。

鋼製格子枠堰堤

そして３ヶ所目の鋼製格子枠堰堤が見えてきたときには、バスの中に大きな歓声があがった。この施設は連盟のサイトやパンフで写真が紹介されており、今回の目玉のひとつだ。沢があった

ため最初は遠目で説明を聞いていた参加者だが、ガイドの「沢渡って近くで見たい人はどうぞ！」の一言に、一斉に我先に沢を渡り始めた！えっ？とあっけにとられていた我々も彼らの後を追う。ここでも撮る、触ると大人気の堰堤。堰堤を構成する鋼管の厚みが部分部分で違うという専門ガイドの説明に関心を示すマニアックな人もいた。

鋼製格子枠堰堤の沢を渡る参加者

５ヶ所を廻ってお昼となった。期待の昼食は…弁当かっ！と思ったら、別に手打ちそばが付いた。これはうれしい。長野県に来たかいがあったというもの。

午後は村北部の堰堤を巡る。村北部の中土、北小谷は地形が急峻で、災害の発生も多い地域である。工事用仮設道路なのだろうか、急勾配の細い砂利道をバスは谷へ下っていき、セル堰堤に到着。この堰堤は「地産地消型堰堤」とのこと。鋼製の巨大な丸いセル内に現場発生の土砂を入れたものが３基並んで、景観的にもインパクト大。

「地産地消型」のセル堰堤

次の堰堤へ至る道も険しいものだった。「世にも珍しいマイクロバスのスイッチバック」ではまたまたバス内に大きな歓声があがり、リングネット堰堤に到着。これは土石流をワイヤーネットで受け止めるというこれまた珍しい構造物。ここで参加者から「堰堤の銘板はありますか？」との質問が。専門ガイドが藪の中から銘板を発見すると、なんと参加者たちは続々と藪を掻き分け銘板を撮影に！アツい！アツすぎる！またまた参加者たちの堰堤にかける思いとその行動力に圧倒される。

その後、日本で最初に造った「スーパー暗渠堰堤」や日本三大崩落のひとつ稗田山など話題性のある箇所を見学し、ツアーは終了した。

ツアーバスの中では、村内の温泉や山などの見どころだけでなく、人々の暮らしなども随時紹介され、小谷村の持っている観光的ポテンシャルの高さを感じた。

また、ツアーの最後にガイドさんから『小谷村に移住してほしい』旨のメッセージがあったのは印象的だった。土木施設ツアーが別の視点からも地域振興に寄与できる可能性を感じた。

## ４　アンケート調査

土木施設を見学に来る人たちはどのような思いを抱いて出かけてくるのか？小谷村砂防ダム巡りツアーに参加するにあたって、これを参加者の意向を確認する貴重な機会ととらえ、主催者の了解のもと、ツアー参加者に対しアンケート調査を行うとともに、任意で参加者へのインタビューを行った。

また、このようなツアーを主催する数少ない事業者である小谷村観光連盟へもアンケート調査をお願いし、ツアーの実施状況、PR の方法や効果などについて実情を把握することとした。

### １　小谷村砂防ダム巡りツアー参加者へのアンケート調査（考察）

（アンケート調査の内容と結果は資料編資料１を参照）

参加者 14 名に対しアンケート調査表を配布し、全員から快く回答をいただいた。参加者の皆様にはこの場をお借りして心より御礼申し上げます。

➢参加者について

・年齢構成は 20～40 歳台が全体の 8 割弱を占めている。

・性別は男女とも半々程度である。

・参加者の居住地は、8 割弱が県外である。

・職業は会社員、公務員、パート、学生等多岐にわたっている。

以上から、参加者の特徴としては、

『40 歳台までの比較的若い世代が中心で、性別や職業による偏りはない。県外からの参加が大多数を占め、周辺の観光も一つの目的として参加されているのではないか』

ということが考察される。

#### (1)今回のツアーについて

➢参加回数

1 回目が 9 割以上を占める。リピート率は少ない。

➢参加人数

グループでの参加が 6 割強を占めるが、1 人での参加も 5 名いた。単独インタビューの結果、単独での参加者は、土木施設に詳しく、全国的に土木施設を見て回っている人が多い傾向にあった。

➢ツアーをどこで知ったか

「主催者ホームページやパンフレットを見て」という人が 2 割弱と少なく、意外な結果となった。知人からの紹介（ロコミ）や、デイリーポータル Z というネットサイトでの紹介を見てという人が 8 割を超え、PR 方法に工夫が必要であることが伺える。

➢参加のきっかけ

「土木施設に興味があるから」が 4 割強で、「観光の一環」「自身の研究、知識の幅を広めたい」「被写体として魅力がある」等、自らの趣味や研鑽が参加へのきっかけとなっていることが特徴的である。

➢今回のツアーの魅力

砂防ダムの機能や構造が見られること以外に、「普段行けない場所に行けること」が 4 割強あり、土木施設ツアーには日常からの脱却的な一種の冒険的魅力があるものと思われる。

➢滞在期間、滞在先、滞在中に立ち寄る場所

県外参加者が多いためか、半数以上が宿泊を伴う滞在となっている。

内、滞在先は県内が 7 割強を占め、他に立ち寄る場所としては、諏訪大社、安曇野、白馬、木崎湖、立山黒部アルペンルート等周辺観光地が多かった。

➢参加費用

半数以上がちょうどよいとの回答であった。ただ、子供料金の設定が無かったため、子供連れには高いという意見もあった。

➢満足度

「非常に満足」が 6 割、「満足」が 4 割で、全員が満足との結果となった。これはツアーの内容が優れていたことも大きな要因であると思われるが、「土木施設ツアーには需要がある」ことを立証する重要なデータとなった。

➢今回のツアーでよかったところ

ツアーメインの「砂防ダム」が 3 割であるが、同時に「自然、景観、地形」「昼食、特産品」という地理的、観光的要因も 5 割弱を占め、「土木施設＋観光」というセットが重要であることを物語る結果となった。また、ツアーガイド（今回はメインガイドと砂防ダム専門ガイドの 2 種類が配置されていた）の話がよかったとの回答が 2 割弱あり、ガイドの重要性も浮き彫りとなった。

(2)土木施設、土木遺産について

➢興味のある土木施設の種類

ダム、橋梁、トンネル、水路、鉄道等々押しなべて同割合程度であり、特定の施設に偏ることがなかった。

➢土木施設から感じる魅力

「大きさ、機能、デザイン」のハード的な魅力が過半数を占めたが、「雰囲気、非日常感、歴史、エピソード」という感性にうったえるソフト的魅力も 4 割近くを占め、PR する上での重要な要素であることが判明した。

➢県内の土木施設で行ってみたい場所（自由回答）

高瀬ダム、牛伏川階段工、西天竜円筒分水工群など、県内でも著名な施設が挙げら

れたが、そもそも長野県にどのような土木施設があるのか知らないという意見が多く、やはり PR されていない分野であることが考察される。

➢他の土木施設見学ツアーでよかった場所（自由回答）

立山カルデラ砂防見学会、関電黒部ルート見学ツアー、外環放水路、琵琶湖疏水など、全国でも有名な施設が挙げられた。特に関電黒部ルートは複数回答有。

➢土木施設に係るツアー、イベント参加時に重視する点

「土木施設の機能・構造・デザイン」、「周辺の自然・景観・地形」で全体の約 8 割を占め、ツアーについてのアンケート結果と共に「土木施設＋観光」が重要であることを裏付ける結果となった。

➢土木施設が与えてくれるもの

知識、感動、圧倒感、非日常性という回答が多くを占めた。「大きなもの」から感じる圧倒感が特に重要との回答があったことは特筆すべき点であった。

➢土木施設の魅力、観光資源としての活用方法（自由意見）

普段立ち入ることのできない場所へ入れる、非日常感に魅力を感じるとの回答が多かった。また、ツアーや見学ルートを整備し、まとまった情報発信ツールを持つことが重要との意見もあり、土木施設見学に関してはまだまだ環境整備や情報発信が不足していることが伺える。

(3)参加者へのインタビュー

今回のツアーへの参加は、アンケートだけでは把握できない生の参加者の声を聞く重要な機会であると捉え、任意にインタビューを行ったところ、以下のような意見があった。

➢砂防ダムの銘板グッズ、ステッカーがほしい（質感のあるもの）

➢砂防ダムの３D フィギュアがほしい

➢砂防ダムカードを作ればどうか？あればまた来たい

これらの意見から、参加者は観光地でお土産を買うが如く、土木施設に関してもお土産的な、或いはコレクションの対象としてのグッズに対する需要もあることが判明した。

また、参加者の証言から特筆すべきこととして、

➢ダムマイスターの称号を持っている（一般財団法人日本ダム協会に任命制度あり！）

➢ガスタンク（丸いやつ）が好きで各地を巡っている

➢マンホールの蓋の写真を撮り歩いている

など、土木施設に対し相当マニアックでコアなファンが参加していることが判明し、驚愕するとともにこの世界の奥深さを痛感した。同時に、土木施設見学は観光資源としてはまだまだ未開拓の分野であり、未知のポテンシャルを秘めていることを実感せずにはいられなかった。

2　小谷村観光連盟（ツアー主催者）へのアンケート調査（考察）

（アンケート調査の内容と結果は資料編資料２を参照）

今回の主催者である小谷村観光連盟様へは、ツアー参加前にアンケートのお願いをさせていただいたところ、ツアーガイドであるＭ氏から快諾を得、ご回答をいただくことができた。以下特筆すべき点を挙げる。

(1)ツアーについて

➢H24 からツアーを実施しているが、年々参加人数が増加している

➢参加者は県外の人が多く比較的若い世代が多い。女性グループの参加が増えている

➢砂防ダムの専門ガイドを砂防事務所 OB に委託している

➢参加費用の設定は赤字ギリギリのライン

(2)「ドボクアート」について

➢「ドボクアート」のネーミングは協会独自で考案

➢村内に多種多様な砂防ダムがあることを知り、小谷村まで見に来てもらうためにニッチなターゲットに的を絞りツアーを考案

➢他に同様なツアーを実施しているところが少ないため、参加者の満足度はかなり高い

➢話題性のある特異なツアーを開催することで、少しでも小谷村を知って興味を持ってもらえることに価値がある

(3)観光、PR 方法について

➢ホームページと着地型ツアーに特化したパンフレットでツアーを PR

➢ホームページは民間委託で作成

➢PR 方法に対するこだわりは特になし。ストレートでわかりやすい内容を心がけている。併せて小谷村に来たくなるような記事も掲載

(4)ツアーの効果について

➢開催している着地型ツアーは基本的に概ね満足度は高いと感じている（リピート率が 50%を超えるものもある）

➢村の観光振興への影響としてはっきりしたものはないが、参加者に「小谷村はちょっと普通の田舎とは違うゾ」と感じてもらえたらよい

➢村内の人には、「意外なところに需要があるものだ」と感じていただけたと思う

ツアーガイドのＭ氏自身も県外出身者であることから、潜在ニーズと地域資源を融合させ地元の方とは違う視点でツアーを設定できた点、また、参加者へのアンケート調査結果でＭ氏の人柄がよかったという回答もあったことから、この辺りに成功のカギがあるのではないかと推察された。

３　その他

土木施設に興味を持ってもらい、ツアーに参加するなど土木施設を訪れてもらい、今回の研究の最終目的である「お金を落としていってもらう」ためには、まず、人の関心を引くような PR の手法が必須である。

実際、テーマアドバイザーとの意見交換においても、今回の小谷村の「ドボクアート」のような人を惹きつけるネーミングが必要ではないか？との意見を頂戴した。

このため、小谷村観光連盟様に「ドボクアート」という名称を今後使用させていただいてよろしいかお伺いしたところ快諾いただいた。

小谷村観光連盟様の寛大な見解に、この場をお借りして感謝いたします。

小谷村砂防ダムツアーの PR 例

（小谷村観光連盟発行「小旅」より抜粋）

ツアーガイドの説明を聞く参加者

## ５　旅行業者へのインタビューについて

土木遺産ツアーを実施することについて、民間の旅行業者はどのような考えを持っているのか？ツアー化にあたっての問題点や実現の可能性について把握するため、民間旅行業者にインタビューを行った。

（１）N 株式会社（長野市）

①一般的な観光ツアーについて

➢観光の目的地があれば行程立案は比較的容易

➢ツアーのポイントは、「魅力」と「ターゲット」

➢一般的なツアーの「魅力」は、「観光目的地」と「食事」

②土木遺産ツアーの可能性について

➢小谷村砂防ダムツアーは、参加費用がかなり安いと感じる

参加費用：4,900 円/人、最小催行人数：6 人

⇒　4,900 円×6 人＝29,400 円…最少催行時の参加費計

仮に小谷村砂防ダムツアーを民間業者が実施する場合、

運転手単価：4,500 円/hr、運転料金：150 円/km、運転手拘束時間（8：00～16：00）8hr+通勤時間 2hr＝10hr、運転距離 100km と仮定した場合、

4,500×10＋150×100　＝60,000 円　＞　29,400 円　⇒赤字

民間では利益追求が求められるため、この金額でツアーを開催するのは難しい。

➢土木遺産ツアーについては、観光協会など公的な機関での実施が現実的か？

（２）一般社団法人　信州・長野県観光協会

①土木遺産ツアーの問題点と可能性

➢土木施設はアクセスに難ある箇所が多く大型バスが入れない等の制約有⇒催行人数が少ない⇒利益減⇒大手の旅行業者も手を出さない現状。

➢土木施設はその専門性からガイドが別に必要となる。専門ガイドを安定供給できる体制が整えられるのかという不安有

➢土木遺産というテーマにどの程度需要があるのか？集客が見込めるのか？不透明

➢問題点はあるが、観光協会は利益を追求しないため、実現の可能はあると思われる

②ツアーの PR 方法

➢協会では着地型ツアーを「信州楽たび」サイトで PR しているが、検索時になかなかサイトまでたどり着いてくれないのが現状

➢PR 方法は 1 種類だけでなく、別の入り口を増やすことが課題

➢マニア向けのサイトで「デイリーポータルＺ」というサイトがある。このようなところで記事として取り上げてもらえれば、経費をかけず広く PR が可能か

## ６　効果的なＰＲ方法の検討

土木遺産に実際に来てもらうためには、施設の持つ価値や魅力をＰＲすることが必要であるため、効果的なＰＲ方法について検討した。

### （１）ＰＲの対象

まず、ターゲットとして、もとから土木に興味がある層と、今は関心がない層の２種類が考えられる。前者は、すでに魅力の一端を解しているが、それぞれの興味はより専門的で細分化されている。後者には土木遺産という存在がほとんど認識されていないが、潜在的な需要が大きい。よって、後者により重点的に働きかけることが効果的である。

### （２）ＰＲの方法

①パンフレット

ＰＲのツールとして、現在各管理部局ごと別々に把握している土木遺産をまとめ、観光施設としての視点から紹介したものが必要であると考えた。

施設によっては、すでにパンフレット等が作成されているものもあるが、作成者が施設管理者として対象と係わっていることが多いため、機能や施設諸元に重きが置かれた説明資料的な側面が強い。

広く一般の人々へＰＲするためには、地域的、文化的なまとまり、歴史やエピソード、意匠やスケール感などの直感的な「価値」「魅力」を伝える「素敵な」パンフレットの作成が必要である。

②ウェブサイト

インターネットの普及した現在において、ウェブサイトでのＰＲは必須である。しかし、砂防ダムツアー参加者へのアンケート結果から、参加のきっかけは主催者サイトを見てというよりも、意外にもネット上の口コミやマニア向けサイトを見てという人が多かった。土木遺産の持つ魅力や価値をうまく発信することができれば、その話題性によって、経費をかけずにいわば自動的、拡散的に、多くの人々へ広くＰＲが可能であることが伺える。

③フィルムコミッションへの働きかけ

土木遺産を映画やドラマ、ＣＭの撮影地として、またアニメの舞台として活用してもらうことを提案することも効果的と思われる。

現に、県内でも土木施設が映像作品に利用されている例がいくつかあった。また、近年、ロケ地や作品の舞台を実際に訪れてみる「ロケ地巡り」や「聖地巡礼」などを行う人々がマスコミやネットで話題となっていることから、誘客の有効な一手段であると考えられる。

土木遺産の知名度を上げ、施設本来の持つ魅力とはまた別の角度からＰＲすることが可能となる。

## 7　テーマアドバイザー及び阿部知事との意見交換

（1）テーマアドバイザーとの意見交換会

調査・研究の各段階においてテーマアドバイザーとの意見交換を行った。特に、土木遺産を観光資源として展開していく上での留意点について、以下のようなアドバイスをいただいた。

➢県内の土木遺産のリストアップについて

県内にはダムやため池、橋梁、水路などの土木遺産が数多くあるが、観光資源としての魅力やコンセプトを明確にして、整理をする必要があること。

➢現地調査や小谷村砂防ダムツアーについて

アンケート結果から、ツアーには比較的若い世代が県外から参加しており、ダムに限らず、マンホールやガスタンク、施設の銘板など、土木施設が観光としての需要も有していることがよくわかる。

➢観光資源としての展開について

観光業者や観光協会は、土木遺産に関する情報をもっておらず、情報を得る場所も少ない。積極的な情報提供を通じてツアーなどの観光に結びつけるなどの取り組みが大切であること。

➢土木遺産の体系的な整理について

土木遺産の整理にあたって、その他の産業遺産、建築遺産などを体系的にとりまとめて「信州遺産」として認定をしていく提案もあったが、施策をより幅広く展開するために、本研究の中ではあえて体系化をせずに、観光資源になりうる可能性のある施設を広くとらえていくほうがよい。

（2）知事ランチミーティング

成果報告会に先立ち、知事との意見交換を行い、その中で以下のような助言をいただいた。

➢土木遺産として発信していくためには、産業遺産や農業遺産など、他のカテゴリとどう違うのかを明確にしておく必要があるのではないか。

➢アイデアとして、土木遺産のフィルムコミッションへの活用やツアーでの土木職員OBの活用による人生二毛作社会の実現など、もっと展開を考えてほしい

以上のアドバイスを踏まえ、最終的な成果報告会に向けて成果をとりまとめた。

## ８　具体的な施策と期待される効果

（１）成果のまとめ

土木遺産のリストアップや現地調査、ツアーへの参加・アンケート調査、旅行業者への聞取りなど、調査・研究を進めてきたが、ここで、土木遺産を観光資源としての活用するにあたっての課題と、県としての役割を整理し、その解決策として具体的な施策を提案したい。

①土木遺産を観光資源として展開するための課題

県内には、多くの土木遺産が存在しているが、観光資源としての活用にあたっては以下のような課題があげられる。

➢観光資源としての土木遺産の整理

- 土木施設の構造や緒元などの情報は県関係機関（建設部・農政部・林務部など）で把握しているものの、観光資源という視点で統一的に整理されたものはない。
- 観光資源として活用するには、管理者の理解を前提として、アクセス手法、施設の見所やトイレ、駐車場の有無、安全性の確保など、観光の視点からの情報の整理が必要である。

➢観光協会や観光業者との連携

- 土木施設を観光資源として展開する際、県としての取組みだけでなく旅行業の登録がある観光協会や観光業者との連携が必要不可欠である。
- 観光協会等では観光資源としての土木遺産の情報がないため、積極的に土木遺産のもつ魅力や価値、歴史などを PR していく必要がある。

➢土木施設のガイドの確保

- 土木技術や施設の構造、建設された背景など、専門的な内容については観光業者等では説明が困難であるため、現地の案内、パンフレットの作成などに当たっては、その専門性を補うために土木技術者や管理者である県、市町村の OB の活用等の仕組みづくりが必要となる。

➢施設管理者の同意と安全管理

- 土木施設には必ず施設管理者が存在し、施設の適正な機能を確保するための維持管理を日常的に行っている。すなわち施設管理者がいるから土木施設があるといっても過言ではない。土木施設を観光資源として活用するためには、まず施設管理者の了解が必要である。また、土木施設はその機能を発揮するため特殊な構造である場合が多く、見学にあたっては転落等の危険を伴う場合が多く想定されることから、十分な安全対策を講じる必要がある。

（２）具体的な施策の提案

これらの課題を踏まえた上で、具体的な取組みとして、以下の施策を提案したい。

①土木遺産 PR パンフレットの作成

土木遺産の中には、登録有形文化財等に公式に認定をされて個別に施設紹介のパンフレットが作成されているものはあるが、県全体として土木遺産を総括した資料はない。また、パンフレットの作成者は主に施設管理者として土木遺産と係わっていることが多いため、機能や施設諸元に重きが置かれた説明資料的な側面が強く、地域的、文化的なまとまり、歴史やエピソード、意匠やスケール感などの直感的な魅力を伝えきれていないものが多く見られる。

そこで、県関係機関で把握している土木遺産の情報を、観光という視点で整理した魅力あるパンフレットの作成を行うことを提案したい。

作成にあたってはまず、県建設部、農政部、林務部ほか関係機関が持っている施設情報の中から、観光資源としての活用ができる可能性のあるものをリストアップし、観光部等が統括的な立場で、その内容の整理していく必要がある。

こうして整理された情報は、市町村や観光協会、観光業者へ広く提供可能なデータとなることに加え、県内外で土木遺産に興味を持つドボクファン向けにホームページのサイト等で紹介することで、話題を呼び、長野県に注目してもらうための広報ツールとしても活用が可能となる。

②観光協会等へのモニターツアーの開催

土木遺産を観光資源としてより幅広く展開していくため、観光協会や観光業者への土木遺産モニターツアーの開催を提案したい。

観光業界の中で土木遺産に関する情報が不足する中で、ツアー実施のノウハウを持っている観光協会や観光業者の皆様に実際に現場を訪れていただき、ダムのもつ巨大なスケール感や橋梁のデザイン・機能美、あるいは、農業用施設のもつ歴史や物語など、観光商品になりうる土木遺産を生で体験していただく機会を設定する。

土木施設の魅力は見る人にとって様々である。ツアー参加者となる対象も、ダムマニアを対象にするか、夏休みの自由研究の親子連れを対象にするかによってツアーの開催の仕方や PR の手法も変わってくる。ツアーの採算性も踏まえて、観光の商品化や情報の発信の手法について、観光のプロである観光協会や観光業者と連携することで、より具体的かつ効果的な検討ができると思われる。

またツアーでの現地案内や施設の紹介にあたっては、県や市町村の技術系職員 OB を活用するで専門的な説明が可能となるとともに、長年積み上げてきた経験や知識を生かした、参加者の興味を引く案内が可能となり、人生二毛作社会への貢献も図れるものと考えられる。

③フィルムコミッションへのロケ地情報の提供

土木施設は人工的な構造物ではあるが、建設から長い年月が経過することで風景の一部として溶け込み、独特な風情を有している場合がある。こうした風景は、実際にCMやドラマ、映画のロケ地として活用されている。風景の一部としてメディアで取り上げられることで、近年増加しているドラマや映画ファンの「ロケ地巡り」の対象となることが期待される。

観光資源としての土木遺産を整理する中で、ロケ地として活用が可能な施設をあわせて整理し、これをフィルムコミッションへ提供することで、土木遺産を風景としての活用を提案したい。

このためには、撮影者側から求められる様々なニーズに答えることができるかどうかについて、施設を管理する側からの情報提供が必要となる。

（３）期待される効果

上記のような施策を通じて、長野県の土木遺産が県内外に発信され、全国的にも例の少ない土木遺産ツアー等が話題となり、これがきっかけとなって土木遺産ファンの増加、誘客が期待される。特に、土木施設は日帰りでは行くことが困難な位置にあることが多いため宿泊でのツアー参加となること、また、土木施設見学と併せた周辺観光地への来訪が経済効果を更に押し上げることも期待される。

また、映画やドラマのロケ地として取り上げられることで、同様に県内への観光客の増加が期待される。

（４）予算について

上記の施策にかかる予算としては、パンフレットの作成にかかる費用、またモニターツアーの開催にかかる費用として約３００万円程度を想定している。

## 資料編

➢資料１
ドボクアート砂防ダム巡りバスツアー アンケート調査結果

➢資料２
『ドボクアート砂防ダム巡りバスツアー』について主催者小谷村観光連盟様にお聞きしたい事項 アンケート結果

➢資料３
「職員による政策研究」　グループ活動　経過

資料１

# ドボクアート砂防ダム巡りバスツアー　アンケート

長野県では、橋梁やダム、トンネル、砂防施設、農業用水路、ため池などの土木施設を、「土木遺産」として観光面に活用していくための政策研究を行っています。この研究に資するデータを収集するため、本ツアーに参加された皆様に、以下のアンケート調査をお願いしたいと考えております。つきましては、ツアーをお楽しみ中ご面倒をお掛けし大変恐縮ですが、ご理解とご協力をお願いします。

〔小谷村砂防ダム巡りツアーについて〕

Ｑ１　このツアーへの参加は何回目ですか？

□１回目　□２回目　□３回目　□その他（　　回目）

Ｑ２　今回のツアーは何人で参加されましたか

□１人　□２人　□３人　□その他（　　人）

Ｑ３　ツアーはどこで知りましたか？

□小谷村観光連盟ホームページ　□小谷村観光連盟パンフレット　□知人からの紹介

□その他（　　）

Ｑ４　ツアーに参加しようと思われたきっかけは何ですか？（複数回答可）

□長野県（小谷村）観光の一環として

□砂防ダム等の土木施設に興味があるから

□自身の学習、研究、知識の幅を広めたいから

□その他（　　）

Ｑ５　砂防ダム巡りツアーのどのようなところに魅力があると感じますか（複数回答可）

□災害や砂防に係る情報が得られること

□砂防ダムの多様な構造がみられること

□普段では巡ることのできない場所にいけること

□その他（　　）

Ｑ６　今回の小谷村（あるいは長野県内）への滞在期間は何日間ですか？

□日帰り　□１泊２日　□２泊３日　□その他（　　）

Ｑ７　Ｑ６で宿泊される方にお伺いします。滞在先はどちらになりますか？

□小谷村　□県内（市町村名：　　）　□県外（県名：　　）

Ｑ８　滞在期間中、他に立ち寄る予定の場所（観光地など）があればお聞かせください。

例）道の駅おたり、栂池自然園、松本城、善光寺など

| |
|---|
| |

Ｑ９　参加費４，９００円（バス代・ガイド料・昼食代・保険代を含む）についてどう思いますか？

□高い　□やや高い　□ちょうどよい　□やや安い　□安い

Ｑ１０　今回のツアーの満足度はいかがですか？

□非常に満足　□満足　□ふつう　□やや不満足　□不満足

Ｑ１１　今回のツアーでよかったところはなんですか？（複数回答可）

□砂防ダム　□自然・景観・地形　□昼食・特産品　□ガイド・説明

□その他（　　）

〔土木構造物や歴史的な土木施設、土木遺産について〕

Ｑ１２　土木構造物について、特に興味のあるものはなんですか？
（複数回答可）

□治水・利水ダム　□橋梁　□街道・道路　□トンネル
□疏水・水路　□農業用ため池　□鉄道　□砂防ダム
□治山施設　□棚田　□その他（　　）

Ｑ１３　土木構造物から感じる魅力とはなんですか？（複数回答可）

□大きさ　□機能　□デザイン　□歴史　□エピソード・逸話
□文化財等の指定　□非日常感　□雰囲気
□その他（　　）

Ｑ１４　県内の土木施設について、知りたいまたは行ってみたい場所はありますか？

| |
|---|
| |

Ｑ１５　今回のツアー以外に、土木施設に係るツアーなどの観光イベントに参加してよかった場所はありますか？また、その理由はなんですか？

| |
|---|
| |

Ｑ１６　土木構造物や歴史的な土木施設、土木遺産などを活用した観光イベントについて参加を検討する際に、重視するものはなんですか？（複数回答可）

□土木施設の機能、構造　□土木施設の歴史、逸話
□土木施設のデザイン　□土木施設が有名なものであること
□周辺の観光地、観光施設　□周辺の特産品、グルメ
□周辺の自然、景観、地形　□パンフレット、ホームページなどの内容、見栄え
□その他（　　）

Ｑ１７　土木構造物や歴史的な土木施設、土木遺産は、あなたに何を与えてくれるものですか？
（例：知識、満足感、癒し、感動、喜び、誇りなど）

| |
|---|
| |

Ｑ１８　土木構造物や歴史的な土木施設、土木遺産について感じる魅力や観光資源としての有効な活用方法についてご意見等があれば自由に記載をお願いします。

| |
|---|
| |

ご協力ありがとうございました。最後に以下の内容について差支えない範囲で記入をお願いいたします。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 年齢 | | 居住地 | |
| 性別 | | ご職業 | |

# 小谷村砂防ダムツアー参加者アンケート結果

## アンケートの方法及び対象

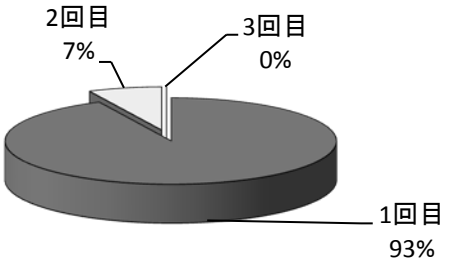
26.8.2に開催されたツアー参加者14名に対し、
アンケートを行った。

| | |
|---|---|
| 配布数 | 14 |
| 回収数 | 14 |
| 回収率 | 100 % |

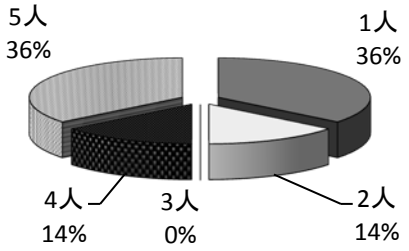
## アンケート結果

【小谷村砂防ダム巡りツアーについて】

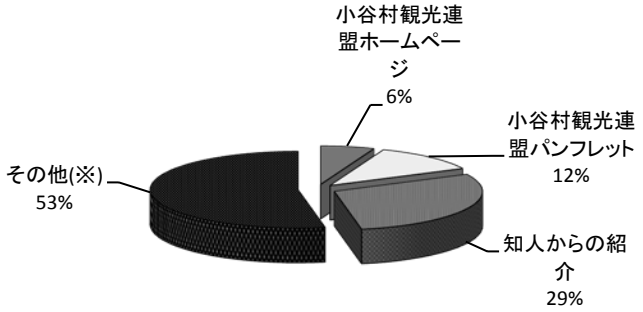
Q1　このツアーへの参加は何回目ですか？




Q2　今回のツアーは何人で参加されましたか？

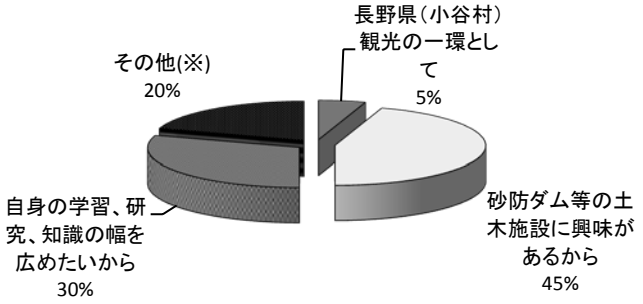



Q3　ツアーはどこで知りましたか？




(※)その他
- 「土木学会誌」平成26年6月号
- デイリーポータルZ
- 取材

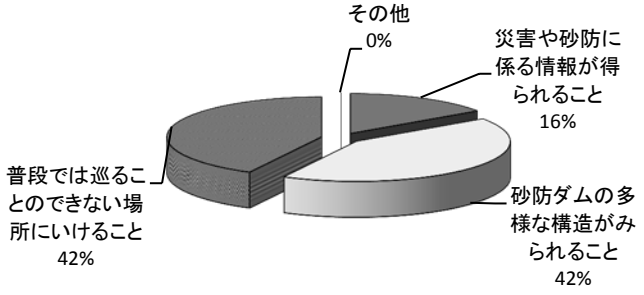
Q4　ツアーに参加しようと思われたきっかけは何ですか？（複数回答可）



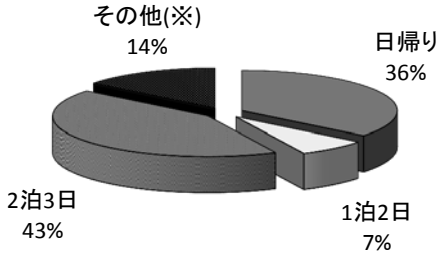

(※)その他
- 写真の被写体として砂防ダムが優れているため
- ダムの中に入れるのがめずらしいから
- 知人の誘い
- 地理に興味があり、町歩きなども好きなので

アンケート結果

## Q5　砂防ダム巡りツアーのどのようなところに魅力があると感じますか？（複数回答可）

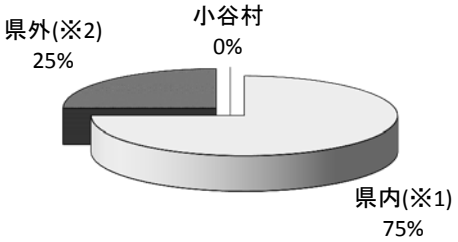



## Q6　今回の小谷村（あるいは長野県内）への滞在期間は何日間ですか？




(※)その他
・村内在住
・富山に一泊

## Q7　Q6で宿泊される方にお伺いします。滞在先はどちらになりますか？

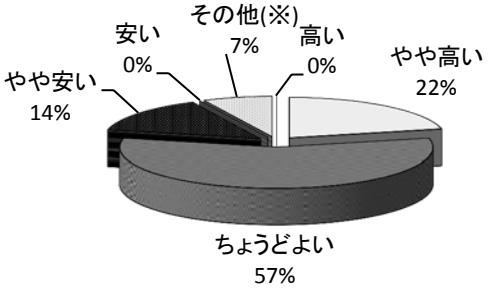



(※1)県内…塩尻市･上田市×1人、大町×5人
(※2)県外…新潟県×1人、富山県×1人

## Q8　滞在期間中、他に立ち寄る予定の場所（観光地など）があればお聞かせください。
（例：道の駅おたり、栂池自然園、松本城、善光寺など）

・今回は日程の都合で県南の立ち寄りはない予定です。
・諏訪湖、諏訪大社、安曇野の水車
・木崎湖×5人
・道の駅おたり×2人
・アルペンルート
・白馬村

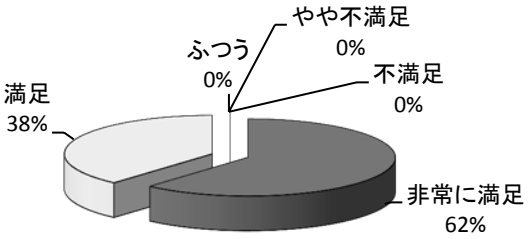
## Q9　参加費4,900円（バス代・ガイド料・昼食代・保険代を含む）についてどう思いますか？



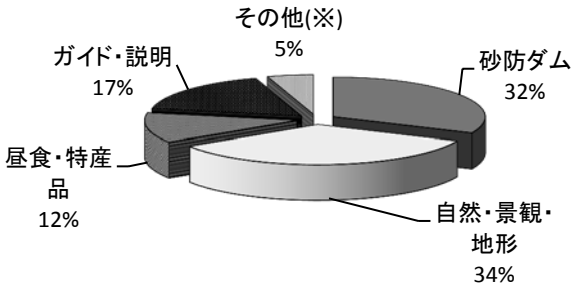

(※)その他
・子供(小学生)には高い。大人にはちょうどよい。

アンケート結果

Q10　今回のツアーの満足度はいかがですか？



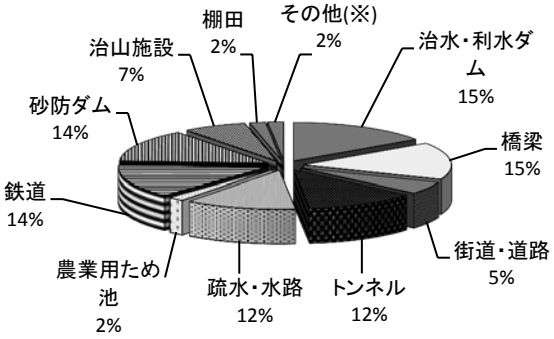

Q11　今回のツアーでよかったところはなんですか？（複数回答可）




(※)その他
・工事関係者OBの方などと話せてよかったです。
・ガイドのお兄さん

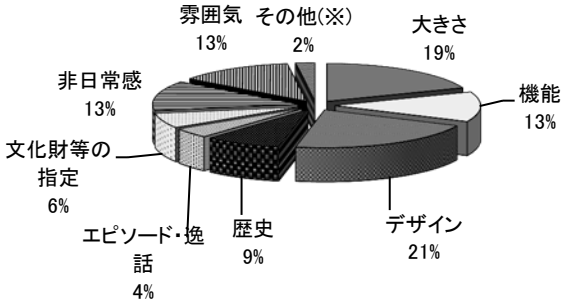
【土木構造物や歴史的な土木施設、土木遺産について】

Q12　土木構造物について、特に興味のあるものはなんですか？（複数回答可）




(※)その他
・暗渠

Q13　土木構造物から感じる魅力とはなんですか？（複数回答可）




(※)その他
・見えないところで働くインフラが、我々最も重要な機能・資産であることを考えさせられます。

アンケート結果

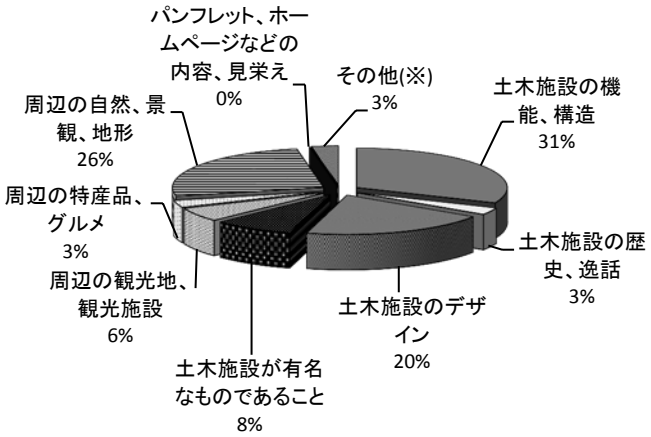
## Q14　県内の土木施設について、知りたいまたは行ってみたい場所はありますか？

・特にない。（分からない）
・高瀬ダム
・土木施設を知らないので、知らないことを知ることができるようなツアーに参加したいです。
・知っている場所が少ないので…。
・牛伏川、階段工、西天竜円筒分水工群

## Q15　今回のツアー以外に、土木施設に係るツアーなどの観光イベントに参加してよかった場所はありますか？また、その理由はなんですか？

・立山カルデラ砂防見学会。土木施設の整備の工夫、エピソード等と聞くことができ、実際に目のあたりにすることができた。
・琵琶湖疏水、佐渡金山、江戸～明治などから産業として成り立ち、生活の基盤を支えていたところ。
・参加した事がないです。
・外環放水路
・黒部ルート見学ツアー（無料（交通費以外）のため）
・初めてです。
・ダムなどの見学、土木施設ではありませんが、工場（外観）見学は楽しかったです。
・関電黒部ルート、普段行けない場所だから。

## Q16　土木構造物や歴史的な土木施設、土木遺産などを活用した観光イベントについて参加を検討する際に、重視するものはなんですか？（複数回答可）




（※）その他
・TVなどメディアからは得にくい知識が得られる。

## Q17　土木建造物や歴史的な土木施設、土木遺産は、あなたに何を与えてくれるものですか？（例：知識、満足感、癒し、感動、喜び、誇りなど）

・知識、感動、誇り
・知識、誇り、偉大さ
・知識、感動
・大きなものに対する興味
・癒し
・感動
・生活にかかわる知らなかったことについて、専門性を備えた知識を得られること（得るきっかけになること）
・ダイナミックな人の創り出したものを見ることによる感動
・満足感、圧迫、圧倒感←重要!!
・役に立つパブリックアート
・知識、非日常感

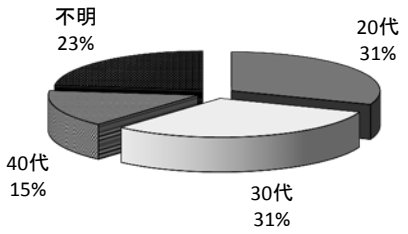
アンケート結果

**Q18　土木建造物や歴史的な土木施設、土木遺産について感じる魅力や観光資源としての有効な活用方法について、ご意見等があれば自由に記載をお願いします。**

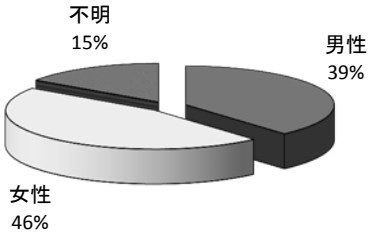
・普段は立ち入ることのできない箇所で、実施設を見学し、エピソード等を聞くことで、施設の持つ意味あいを知ることができることは有意義だと思います。
・今回のようなツアーや見学道などを整備し、まとまった情報発信ツールを持つこと。広報の一環ではなく事業として成り立つように外部の人間を投入すること。
・土木構造物・施設について見学と説明を受ける事で、その意味やなぜあるのか？を知ることができ、土木を身近に感じられて良かったと思いました。
・工法など、興味があるものも多いので、今回のようなツアーでまわれるのも有。
・普段見られない土木施設の内部や点検ルートなどを見られれば魅力的です。
・子供の自由研究になるようなもの。砂防の実験もおもしろいと思います。
・機能美が好き。
・土木方面だけでなく、上記のような工場好き、巨大建築物が好きな人々にアピールするとよいと思います。

## ●参加者の諸元

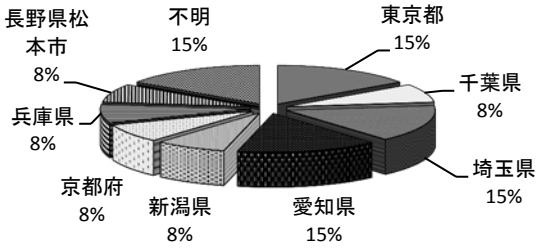
□年齢



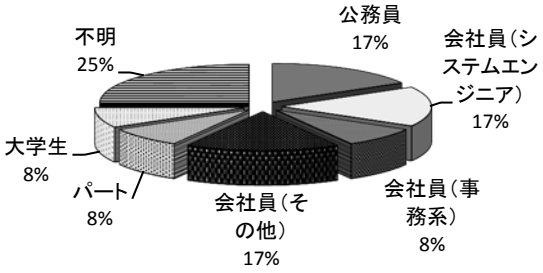

□性別




□居住地




□職業



資料 2

『ドボクアート砂防ダム巡りバスツアー』について
主催者小谷村観光連盟様にお聞きしたい事項　アンケート結果

1．ドボクアートツアーについて

・ツアーはいつから開催していますか？
H24.7 月～

・毎回の参加人数は定員 20 名に対し何名（何割）くらいですか？
4～5 割程度でしたが、今年の８月は 7，８割です。

・毎年の参加人数に変動はありますか？（毎年増えている…等）
年を追うごとに増えています。特に今年の８月は多いです。

・参加費用 4,900 円ですが、収支的にはいかがですか？
今年からバス利用料が上がった関係で厳しい状況です。

・参加費用の概ねの内訳について教えてください。
バス代、昼食代（一人あたり 1,000 円）

・ツアー実施にあたり保険等は入るのでしょうか？
ダムツアーに限らず、連盟主催の着地型旅行ツアーは全て保険に加入します。

・運転手、ガイドは、地元の一般の方に委託しているのですか？
運転手含むバス会社は地元の会社に依頼しています。
ガイドは砂防事務所の OB の方々にお願いすることがありますが、毎回来ていただけるわけではありません。

・ガイドはどのような方を選定していますか？
松本砂防事務所の OB の方。

・ツアーの民間への委託等は考えていますか？
やっていただける方がいればぜひ。

・参加者の年齢及び男女構成はどのようになっていますか？
比較的、若い若年層が多いです。3～4 人の若い女性グループの参加が増えました。今年は家族での申込みもあります。

- 参加者はどのような地域から来られていますか？
  県外。都市部からの参加が多いです。

- 参加者が多い地域はどこですか？
  関西方面が多いです。

- リピーターはありますか？
  多くはないですが、あります。

2．ドボクアートについて

- 「ドボクアート」というネーミングは主催者で考えたのですか？
  そうです。

- 「ドボクアート」をツアーにしようとしたきっかけはなんですか？
  村内に多種多様な砂防堰堤があることを知ったこと。

- 今回テーマを「砂防ダム」に絞ったのはなぜですか？
  登山、トレッキング以外で提供できるアクティビティが村内に少ないこと。
  首都圏から遠く、白馬村よりさらに奥の小谷村まで来ていただくためには、ニッチなターゲットに的を絞ったほうが効果的と考えたから。

- 村内の他の「ドボクアート」を対象にしたツアーは考えていますか？
  車両アクセスの関係でいまのところ考えていません。

- 「ドボクアート」に対する参加者の感想、反応等はいかがですか？
  満足度はかなり高いです。他に同様のツアーを開催しているところも少ないため。

- 主催者として、「ドボクアート」にはどのような「価値」があると思いますか？
  万人受けする一般的なツアーより、話題性がある特異なツアーを開催していることを知ってもらうことで少しでも小谷村を知ってもらい、興味を持っていただけること。

3．観光、PR 方法について

- 観光連盟のホームページがとてもよくできていると思いますが、どこで作成していますか？（委託？自力？）
  白馬村の製作会社に委託しています。
  メンテナンスは可能な限り、連盟で行います。

- ツアーについて、ホームページ以外で広報しているものがありますか？
  着地型ツアーだけをまとめたパンフレットを製作して配布しています。

- ツアーを PR するにあたって、気を遣っているところ（ポイント、こだわり等）はなんですか？
  PR 方法に対するこだわりはとくになく、わかりやすい説明を心がけるくらいです。
  奇をてらうよりストレートな内容を。
  ツアー紹介のパンフレットには小谷村の雰囲気を知ってもらう、来たくなるような記事も掲載しています。

- 他の都道府県、市町村、民間等のツアーの内容や、PR 方法について参考にした事例があれば教えてください。
  佐世保市観光協会のパンフレットはよくできており、参考にさせていただきました。

- 村観光振興課との役割分担はどのようになっているのですか？
  着地型ツアーに関しては特段ありません。観光振興課は JR や村営バスなどのインフラ対応ほか、登山道整備や村有の観光施設のメンテナンスを行っています。

４．効果について

- ツアーの内容等について参加者にアンケート等をとっていますか？
  基本的にとっていません。

- 参加者の感想などお聞きしていたら教えてください。
  基本的に概ね満足度は高いと感じています。春の山菜狩りは県内参加者も多いですが、リピーター率が５０％を超えることがあるほどです。ガイド役を担ってもらえる方々の人柄も大きいと思います。

- このツアーは村の観光振興にどのように寄与していますか？
  はっきりしたものはありませんが、参加していただいた方、ツアーを知っていただいた方に小谷村はちょっと普通の田舎とは違うゾ、と感じていただけたら。

- ツアーを実施することによって、地域住民の意識等に変化はありましたか？（ツアーに関わった人も含めて）
  直接関係する人たち以外には特段の変化はないと思いますが、意外なところに需要があるものだと知ってもらえた、感じていただけたところはあると思います。今夏、ドボクアートのツアー模様を村内の CATV で放映予定です。

資料3

# 「職員による政策研究」 グループ活動　経過

| 回 | 年月日 | 場所 | 研究内容 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 26.04.25 | 県庁講堂 | ○キックオフミーティング（第1回研究会議） | |
| 2 | 26.05.20 | 長野地方事務所<br>201会議室 | 第2回研究会議<br>○土木遺産のネタ集めの発表<br>○土木遺産ツアーやイベント等開催情報の収集発表<br>○実現したい姿について検討 | |
| 3 | 26.06.05 | 長野地方事務所<br>201会議室 | 第3回研究会議<br>○観光の視点から、PRの方法についてネタ集め、発表 | |
| 4 | 26.06.05 | 県立図書館 | ○テーマアドバイザーとの意見交換 | |
| 5 | 26.07.07 | 長野地方事務所<br>201会議室 | 第4回研究会議<br>○研究の進め方の確認<br>○研究フィールドの決定<br>○現地視察におけるアンケート調査、主催者への聞取り事項について | |
| 6 | 26.07.09 | 県庁西庁舎 | ○プレゼンテーション研修 | |
| 7 | 26.07.17 | 長野地方事務所<br>201会議室 | 第5回研究会議<br>○ツアーで実施したアンケートの集計、ポイントの整理<br>○研究フィールド内の土木遺産等の再発掘 | |
| 8 | 26.07.17 | 県立図書館 | ○テーマアドバイザーとの意見交換 | |
| 9 | 26.07.29 | 松本市他 | ○松本地方事務所管内　土木遺産現地調査<br>○牛伏川学習講座参加 | |
| 10 | 26.07.31 | 長野市他 | ○長野地方事務所管内　土木遺産現地調査 | |
| 11 | 26.08.02 | 小谷村 | ドボクアート砂防ダム巡りバスツアー　参加 | |
| 12 | 26.08.07 | 長野地方事務所<br>201会議室 | 第6回研究会議<br>○長野地方事務所管内の土木遺産の魅力の整理 | |
| 13 | 26.08.20 | 長野地方事務所<br>201会議室 | 第7回研究会議<br>○メンバーの推し土木遺産のPR<br>○発信方法の検討 | |
| 14 | 26.08.25 | 長野地方事務所<br>504会議室 | ○テーマアドバイザーとの意見交換 | |
| 15 | 26.08.28 | 県庁農政部農地整備課 | ○旅行業者へのインタビュー（長野トラベル(株)） | |
| 16 | 26.09.04 | 県観光協会 | ○旅行業者へのインタビュー（信州・長野県観光協会） | |
| 17 | 26.09.08 | 長野地方事務所<br>201会議室 | 第8回研究会議<br>○研究報告会準備 | |
| 18 | 26.09.11 | 知事室 | 知事との意見交換会 | |
| 19 | 26.09.17 | 長野地方事務所<br>504会議室 | 第9回研究会議<br>○研究報告会準備 | |
| 20 | 26.09.22 | 県庁講堂 | 研究成果報告会 | |
| 21 | 26.10.22 | 長野地方事務所<br>201会議室 | 第10回研究会議<br>○報告書作成について | |